宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像社会
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940－62－1311㈹
定価 一年送料共 1000円

神具・装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡店 福岡市博多区東公園二－三一（〒812）
電話 福岡(92)六五一－九四五六番
本店 京都市下京区油小路六条北入（〒600）
電話 京都(075)351－1－三四一(代)－104番
京都(075)351－三四三－三三四一番

大祓式・夏越祭斎行

千数百年の歴史と伝統に基づく「夏越大祓神事」が七月三十一日午後五時より、多数の氏子崇敬者参列のもと古儀に則り厳かに斎行された。

この「大祓」の儀式は、神祇官の命により、全国の神社の宮司が日本中隈なく災禍がないように、朝廷の名代となり行ったことに由来、現在に至る迄連綿と続けられている。

当大社では陽暦の七月、十二月の晦日に執り行っている。

当日早朝より地元氏子総代の奉仕により大茅の輪作りが行われ、鮮やかな緑色の大茅の輪が神門前に飾り付けられた。

古来、この茅の輪を三度潜る事により邪気、災難を祓い去り、暑気にもめげず健全な生活を送ることができると伝承されている。

定刻午後五時、全国より寄せられた紅白の人形を収めた唐櫃が神門前に供えられ、神職、巫女、総代、一般崇敬者が多数参列する中、太田権宮司が朗々と大祓詞を唱え、参列者全員に手渡された切麻で各自の身体を祓清め、続いて祓物と言われる木綿を切り裂き、半年間の内に知らず知らずに犯した罪、穢を祓い、古歌を唱和しながら大茅の輪を潜る神事が行われた。

この後、本殿へと進み、夏越祭を斎行、国家皇室の安泰、繁栄、又氏子崇敬者や人形を郵送された全国の崇敬者の方々の健康、災難消除を祈念する宮司の祝詞奏上、続いて神楽豊栄舞が奏され、夏恒例の一大神事は滞りなく終了した。

尚、全国より納められた人形は、古儀に則りお祓いがなされ、祓物と共に釣川河口より玄界洋上遠くに流棄された。

又、魔除けとされる茅（ちがや）は各玄関や神棚に供えるべく持ち帰る人々の影が夕映えの中に美しく見え、今後、神郡宗像の夏は一段と厳しさを増す。

「御礼」

当大社恒例の夏越祭神事斎行に当たりましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より、多数の人形をお寄せ戴き、お蔭を持ちまして、祭典も盛大裡に斎行致すことが出来ました。

ここに謹んで御礼申し上げます。

平成五年盛夏

宗像大社
宮司　養父　守

崇敬者各位

奉納袋配布並に取纏め御礼

平成五年度、宗像大社夏越大祓式斎行にあたり、市・郡氏子各位への奉納袋配布並に取纏めにつきましては猛暑の中御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は例年にもまして盛大厳粛に斎行致すことが出来ました。

茲に謹んで紙面を以ち感謝の意を表します。

平成五年八月吉日

宗像大社
宮司　養父　守
宗像大社氏子会
会長　出光太蔵

宗像大社
氏子会評議員
〃　総代　各位

総選挙の教へるもの

七月十八日の総選挙の結果は、解散前に比べて自民党は現状維持、社会党が半減し、その減少分を新生、日本新、さきがけの三つの新党が分け合ふこととなった。社会党は党派結成以来初めて経験した惨敗であった。マスコミは揃って、選挙後になっても自民党の過半数割れを重視し、今後の政局についてもこの角度からのみ、政局の行方を追ってゐるが、この現象は解散の前に、国会内部において既に生じてゐたもので、選挙の結果の目新しい傾向ではない。ここでは今回の選挙の投票の動向から、時代の流れと国民が求めてゐるものを追ってみるのが緊要だと思ふ。

○

投票率は六七・二％と衆議院選挙では最低水準だ。しかし従来に比べて格段に低いわけではない。これは今回の選挙がマスコミの見出しのやうに「国民の怒りが爆発」したやうな興奮状態ではないことを示してゐる。それなら投票率は極端に低下するか向上する。冷静さの中で社会党が一人負けした。しかも社会党の減少分は、従来の選挙なら自民党に寄せられる筈であったのが三つの新党に寄せられた。これが何を意味するかにこそ、注目すべきではなからうか。さらに三つの新党を比較すると、自民党から別れた新生党とさきがけが特に好調であった。日本新党は三十五名の当選を出したが、立候補者の約半数の当選にとどまってゐる。対して自民党分裂の二党はともに八割の当選率を確保した。

国民は最近の国会に、明らかに不満をもってゐる。審議を拒否したり、徒に時間を空転させたり、裏かけひきのみを重視するいはゆる「永田町の政治」には満足してゐない。その点においては自社ともに責任があるとして、自民党の得票増はならなかった。しかし同時に国民は政治のみではなく、社会環境をも転換させる体制の変革は希望しない。各党派の分立で多少の国会内での混乱や合従連衡は、政界再建のためにやむを得ないとしても（実際、それは避けたくとも避け得ぬ現象であることは明白であった）、脱線しての反体制には走って貰ひたくなかった。

国民はもう、これ以上社会を沈滞させ、緊急の生活上の不安となってゐる不景気脱出への力を国会が喪失することを怖れた。それが万年反対のみに終始した野党社会党の存在そのものを拒否する結果となった。

しかし右から左までの連合集団で今後の政策不透明な日本新党より、大勢においては現状派であり、かつては与党としての政治能力も自民党と同等以上にあるとみた新生党とさきがけの方が安全だと見て、従来の社会党に投じられた政治不満票を集中させたと読むべきではないか。

○

国際情勢は混乱の極に達してゐる。世界は揺れ、その波動は日本をも揺さぶり続けてゐる。そのやうな中、国民は国会の混乱を苦々しく思ってゐる。今回の選挙の結果を見ると、各政党、マスコミが最大の争点とした選挙制度の改革は、殆ど争点にはなり得なかった。それよりもむしろ、国民の求めたものは、戦後四十余年にわたって政治の引きずり続けてきた「戦後体制」を象徴する社会党への決別の意思表示であった。この投票者の意志の重さを政治家もマスコミも注目すべきだらう。

あと数年して戦後五十年を迎へる日本は、国際関係においても経済関係においても、新しい時代に突入しようとしてゐるのだ。今回の総選挙の結果は、一度で安定した政治環境をつくりあげるものとはいひ難い。近い将来においても一度の選挙を避け得ないものであるかもしれない。しかし、新しい脱戦後の流れは今後は強まることはあっても、その逆流はあり得ないのではないか。

○

戦後体制からの脱皮は、神社界にも求められてゐるやうな気がする。終戦直後の神社界の第一の課題は、神社が生き残るため、目の前に突然大きな障害として現れた占領体制との対決であった。しかしそれも政治における社会党と同様に、いつしか相手の自壊作用により、神道の運命を左右するものではなくなりつつある。それとともに神社は、戦後体制の後遺症ともいへる精神空白の社会現象を目の前にして、新しい神道の恢弘の必要を痛感させられる時代を迎へてゐる。

神社は戦後、式年遷宮の度に新しい方向転換を重ねてきた。まづは占領体制の残滓整理に取り組み、ついで神社界の独立と安定のために力を入れてきた。では来たるべき遷宮の後に、神社界は何に取り組むべきか。

戦後の終ったことが、選挙結果からもはっきり窺はれるいまこそ、神社は戦後社会のもたらした脱精神化＝神社信仰の薄まりに積極的に取り組む必要があることを、選挙の結果は示してゐるやうに感ぜられる。

（神社新報より）

残暑御見舞申し上げます

博多の味
味噌せんべい
博多の四季
本舗
有限会社 梅月堂
〒812 福岡市博多区古門戸町1－11
TEL 092－291－2966

夢みる力、満ちて。
伝えたい。時代へ、人へ。
サイン計画、CI・VI提案、ビデオ＆カタログetc.……。
私たちは多彩なメディアによる事業の展開を可能にします。
SHUKOSHA PRINTING
秀巧社印刷株式会社
本社・工場／福岡市南区向野2丁目13-29 〒815 TEL(092)541-5661 FAX(092)541-4001
営業部／福岡市中央区渡辺通り5丁目14-9 〒810 TEL(092)712-7711 FAX(092)714-1017

第三十八回 中津宮七夕揮毫会

梅雨明け宣言がなされたものの、ぐずついた天候が続く上に涼しい夏日となった七月二十四日（土）、宗像大社中津宮の夏の恒例行事である、七夕揮毫会（主催＝宗像大社中津宮・大島村教育委員会）が開催され、宗像郡市内はもとより県内外各地の児童、生徒約三百名が参加、日頃の練習の成果を発揮せんと席上揮毫に臨んだ。

今年で三十八回目を迎えたこの揮毫会は、書道教育の振興と交流を目的に、大島小中学校の先生方を始め各方面の御協力により、夏休みに入って間もない時期に開催されており、参加者も揮毫だけでなく、豊かな自然に恵まれた大島での一日を満喫、親子で心身共にリフレッシュする機会でもある。

本年も参加者は大島小学校（小学校四年生迄）と大島中学校（小学校五年生以上）の二会場で、「ハナ」（幼）、「とり」（小一）、「白いうま」（小二）、「水しぶき」（小三）、「日本文化」（小四）、「曲水の庭」（小五）、「広い球場」（小六）、「国際友好」（中一）、「夏雲奇峰」（中二）、「学業上達」（中三）の各課題に挑戦、筆先に神経を集中し一心不乱に浄書、揮毫会場は緊迫した空気に包まれた。浄書を終えた参加者は、三枚の内の一枚を中津宮社務所の受付へ提出し、優劣が競われた。

全作品が揃ったところで審査を開始、作品は先ず中津宮神前に奉献され、参加者一同の書道上達と健康を祈念してお祓いがなされた。続いて福岡書道会長城戸筑山先生、同副会長坂口雅風先生、吉田石林先生、岩田海道先生、荒牧霄峰先生の五名による厳選な審査が行われ、福岡県知事賞以下各賞が次々と選定された。

一方この間、参加者や引率の先生、父母達は、中津宮照海殿前の海辺で、これも恒例の「サザエ拾い」に参加、用意した四十キロのサザエが撒かれ準備が整うと、合図と共に大きな歓声を上げ、一斉に海へ飛び込んでいった。先程までの緊張から解放された子供達は、水しぶきを上げながらサザエ拾い」に興じ、楽しい一刻を過ごした。

午後三時審査終了、各賞の作品が確定すると、早速表彰式に移り、主催挨拶、荒牧先生の講評に続いて、入賞者へ賞状とトロフィーが授与されると共に、金賞以上の作品が中津宮廻廊に展示された。

表彰式も午後四時には済み、本年の揮毫会も盛会裡に終了、大島での夏を楽しんだ子供や父母達は帰路についた。

尚各賞の入賞者は次の通りである。（金賞以下省略）

【福岡県知事賞】
石津　美和（津屋崎小6）
牛島　由美（八女南中2）

【福岡県議会議長賞】
牧田　隼人（忠見小4）

【福岡県教育委員会賞】
福薗　瑠巳（津屋崎中1）
的場　裕子（神興小5）
松尾　宗明（日の里中3）

【宗像大社宮司賞】
浦本　陽子（舞松原小3）
中山裕紀子（八女南中2）

【宗像市長賞】
緒方　智博（旭小1）
牛島亜紀子（光友中1）

【宗像郡町村長会長賞】
湯川　裕史（福間南小2）
中山えりか（玄海中3）

【宗像郡町村議会議長会長賞】
宮川　望（赤間小6）
宮川奈緒美（城山中1）

【大島村長賞】
中西　清香（舞松原小3）
岡崎　敦子（八女西中1）

【大島村教育委員会賞】
白木　澄歌（南郷小2）
和田恵津子（城山中1）

【福岡書道会賞】
はじづめりえ（長峰小1）
金丸　まや（福島小2）
川野早弥佳（南郷小2）
永野　希（旭小3）
高木　智子（旭小4）
宇都宮信幸（玄海小4）
緒方　美希（旭小5）
橋爪　里佳（長峰小6）
井上　麻紀（八女南中1）

【尚文堂賞】
豊増　一彦（旭小1）
横尾　裕一（旭小2）
真田あゆみ（旭小2）
江崎　友香（長峰小2）
吉川　有沙（旭小3）
広松由美子（旭小3）
木村　佳世（旭小4）
河島　佑香（北山小4）
井上　大輔（上妻小4）
阿部なおみ（玄海小5）
力丸　純子（玄海東小5）
山田るみ子（旭小6）
高倉　朋子（南郷小6）
花田　智裕（河東中1）
桐明　咲子（見崎中2）

【ヒロカネ賞】
的場　友宏（神興小1）
水城　千賀（旭小2）
田代　卓（上妻小2）
鍋山　美紀（吉武小2）
中村　美佳（蒲地小3）
和田　健一（赤間小3）
金丸　真理（福島小4）
坂田　直之（上妻小4）
福田　丞子（玄海小4）
占部　沙織（吉武小5）
牛島　大作（光友小5）
綾戸　常貴（中広川小6）
小方東美子（赤間小6）
月足　聖子（八女南中1）
牛島　暢子（八女南中2）

出光裕治新社長 就任奉告祭斎行

去る七月二十二日（木曜日）、出光興産株式会社代表取締役社長出光裕治氏外役員十名が参拝、本殿に於て就任奉告祭が厳かに執り行われた。

当日は、晴天に恵まれ日差しも強く蒸し暑い一日であった。

正午過ぎ出光裕治新社長、専務取締役出光昭氏、福岡支店長山本繁弘氏外役員一同到着、勅使館にて休憩の後勅使館前にて手水を行い、祓舎にて祓を受け本殿に参進、斎主升谷祢宜により就任奉告の祝詞が朗々と奏上された。続いて出光裕治社長が玉串拝礼、参列の役員一同社長に合せて拝礼を行い、就任奉告の祭典を滞りなく終了した。

出光興産株式会社は明治四十四年、故出光佐三店主により門司に於て出光商会が創立され、本年で創業八十二年目を迎えた。

新社長出光裕治氏は、昭和二十三年、九州大学法文を卒業後、出光興産㈱に入社、ロンドン支店長、海外部長を歴任、昭和五十二年取締役に就任、常務、専務取締役を経て昭和六十一年副社長に、本年六月出光興産㈱六代目の社長に就任した。

出光新社長の趣味は、ゴルフと読書。座右の銘は臨済宗の「随処に主と作れば、立処皆真なり」と言う言葉だそうである。

祭典終了後、勅使館にて会食が行われ和やかな雰囲気の中、就任奉告祭は無事終了した。

第三八六回 宗像大社歌会詠草

中村吾郎 選

毎月末日〆切

大島　目原　節子

霧の濃き海に水雲を採る海女は漂ふ如く移動してゆく

（評）『漂ふ如く』と把握して一首全体に瑞々とした詩情を漂わす。霧の濃き海という実状も効果的だ。

赤間ケ丘　中武　あさ

水張り田の面に影を映しゐるアパートの洗濯物梅雨の晴れ間を

（評）煩雑そうに見える歌だが要約すべき処は要約して纏りを見せ、張りを持たせている。

自由ケ丘　津江冨美子

荒礫に蜷とるらしく散り散りに人らの動く丘より見れば

（評）必ずしも巧みな歌とは言い難いが一首の底辺には作者の純粋な心が流れる。技巧よりも純粋さが尊い。

田　熊　鷺頭かつ代

かりかりと青梅噛みし皓き歯もわが少女期もすでに還らず

日の里　後藤　君代

神籬に湧く水汲みて捧げけむ人の裔ありていまに守れる

福　間　本松　宣子

薬だに無くて赤痢の奄えぬ身を引揚げて来ぬ今六十四歳

福岡東　桜井　ツ子

羽化遂げし蝉は笹の葉にすがりをりいのち充ちたる黒き眼をして

原　町　八波　五月

田に水の入る頃裏の生垣の箱根空木が作溝に散る

名古屋　小田　留子

出稼ぎの異国の人らまじりいて団地の清掃は違和感のなし

自由ケ丘　細川　絹子

霧深き川辺の森に蛍火の点滅しつつ葉陰に動く

吉　留　高山　信子

死ぬるまで我は学ばん獣より放れて人間となりたる故に

武　丸　中村さつき

音たてて代掻く農夫の濁り田に鷺は恐れず虫を啄む

福岡東　清原　絹代

夏場所のなかば過ぎれば優勝を決めむ話題の食堂に満つ

朝　町　古田千代子

大声をあたり一面振りまきてゲートボールの試合始まる

徳　重　石松や寿子

此の春は猫の居らねば安んじて子を育めよ親の燕よ

赤間ケ丘　松本　澄子

雨後の紫陽花の花鮮かに群れ咲くなかに蜂光り飛ぶ

八幡西　山田　耕夕

海辺まで降りる坂道危ぶみし友は途中に手をすけて待つ

城南ケ丘　中間日出子

金色を海におとして今まさに日の歿んとす知床の海

福　間　池浦千鶴子

青年にゆづられし席温かし斯かるぬくみの何故かなつかし

大　島　杉田　禮子

ビルマの地に果てし舅の若き日を聞きつつインパール作戦の特集を視る

福　間　山田よし子

六甲のケーブルカーに見下ろせば湧く霧深く木々の沈める

池　田　小田しめの

夏椿の花一輪がひらきをり梅雨籠る日の庭の夕暮れ

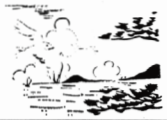
鐘　崎　安永　久子

みじかめの蝋燭一つ今朝も点す逝きし子等との心つなぎて

池　田　小田　いせ

しめやかに笙篳篥の楽流れ琴の音響く会場の中

残暑御見舞申し上げます



まごころで24時間
マリンブルーの
MINATO TAXI
みなとタクシー株式会社
代表取締役　古野　浩
☎0940（33）1331
サンサンイチのサンサンイチ

新星交通有限会社
代表　森　義久
宗像市大字東郷
東郷営業所　0940-36-2111

宗像西鉄タクシー株式会社
代表取締役社長　大里輝親
支配人　花田好幸
宗像市自由ケ丘二-七-三
TEL　0940-32-2111

宗像グリーンタクシー有限会社
代表取締役　藤瀬政敏
宗像市大字河東字岩ヶ鼻一一二二
TEL　0940-33-3330

宗像平和タクシー株式会社
代表取締役　塩川弘昭
宗像郡福間町二七二八-一三
TEL　0940-42-0040

福栄タクシー有限会社
代表取締役会長　保井久
代表取締役社長　保井享
宗像郡福間町字東の前二六三三-八
TEL　0940-42-0371

第六十一回 式年遷宮 お白石持行事に参加して

大島 目原 徳夫

去る八月三日、福岡県神道青年会主催による「お白石持行事」奉献団（県内約三百名）が一日神領民として、大島より九名が参加した。

この行事は、十月の遷御に先立って両宮の御正殿の御敷地にお白石を奉納する行事で、七月三十一日より内宮では、十二日間、外宮では九日間に亘って行われる。

八月二日、福岡県のお白石持行事奉献団一行は福岡を出発し、夕刻バスにて伊勢の二見に入った。そして明日の神事奉仕に先立ち二見ヶ浦に鎮座する興玉神社に於てお祓いを受け（浜参宮「はまさんぐう」と言い、お白石持奉仕者は同神社にてお祓いをうける）、無事奉仕が出来る様身も心も清め当日を迎えた。

奉献当日、あいにくの雨模様となったが、午前七時半全員、奉献衣装である揃いのハッピ、ハチ巻、白ズボン姿に身をつつみ旅館を出発した。約二十分程で神領民集合場所に到着し、定刻八時お祓い町よりいよいよ神事斎行の運びとなった。

先ず、お白石の樽が満載された曳車が三台用意され、我々は二番車の奉仕となった。二番車には我々の他三団体が二本の曳綱（ひきつなぐ）をとり地元奉曳団の奉曳歌の音頭により「エンヤー、エンヤー」の掛け声も高らかに約二キロの沿道を練って進み宇治橋前迄曳いた。その後宇治橋前にて全員お祓いをうけた。橋を渡り終えたところで一人一人に手渡されたお白石を白布で包み持ち、新しく立て替えられた御正殿の南御門より御垣内に入り、檜の香もすがすがしいいくつかの御門を過ぎて、内院に参入。

自らの祈りを永遠のお白石に託して御正殿真近にお納めした。この時ばかりは思わずこの国に生まれた幸せと感激がこみあげてきた。

今回は全国各地から一日神領民と五万五千人の方々が参加されるそうであるがその中の一人としてこの行事に参加できたことは、誠にうれしく思い、まさに千載一遇の喜びである。

私は二十年に一度の盛大なこの神事に微力ながらお手伝いできたことを誇りに思うと共に、この後十月に行われる遷御が滞りなく斎行されるよう祈念する次第である。

神道政治連盟 三役会開催

「神道精神を国政の基礎に」を合言葉として、皇室を尊ぶ運動を中心に、日本のよき伝統文化を守り伝え、国民の幸せ、日本の繁栄、さらには世界の共存共栄に貢献する、さまざまな運動を展開している、神道政治連盟（会長工藤伊豆高山稲荷神社宮司）の三役会が七月二十一日、当社勅使館に於て開催された。

当日、午前十時に三役会出席者が来宮、本殿にて正式参拝、工藤会長の玉串奉奠に合せて、全員が拝礼した。その後、養父宮司（神政連副会長）の案内説明で神宝館を拝観した。

午前十一時勅使館に於て会議を開催。工藤会長の挨拶の後、早速議事に入った。

議事は先づ神政連中央本部の打田事務局長より、先般行われた総選挙についての報告がなされ、審議検討を行った。審議の後、宮崎幹事長より今回、七月三日より十四日迄十二日間にわたって行われた、第十回神道政治連盟海外研修（フィンランド・バルト三国・ベルギー）についての報告がなされ、フィンランドの現状や国内外の事情を外務省で聴いたこと、又バルト三国の一つである、エストニアのサーレマ島では、日本人が訪れたのは初めてとのことでラジオの取材を受けたこと、さらには、ベルギーにおいて、EC本部を訪問し、本部関係者の説明を受けEC統合にあたって民族・宗教の違うものがひとつの枠組みの中に入る難しさを知らされるなど、それぞれの国で内容が豊かで収穫の多い研修であったと述べた。

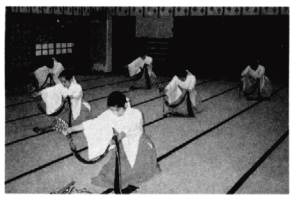
会議終了後、会場を神湊旅館に移して懇親会を行い、一同玄海の新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながら和やかな雰囲気の中で一刻を過ごした。

「浦安舞」温習を受講して

去る七月一日より三日間に亘り、春秋の例大祭や各祭典等に巫女舞として奉納される、「浦安の舞」の温習会が、日本音楽協会々長の多静子先生をお迎えし、新入巫女八名と三年目の巫女三名が、扇舞と鈴舞の御指導をしていただきました。

練習の合間には、先生より神様のお話しや、意義深い体験談や「浦安の舞」は静かな動きの中で優雅さを表現する事を伺い、神前で舞を舞わせていただける、責任感やありがたさを改めて学び神社に仕える巫女として、舞がどんなに大切なものかを実感しました。

日頃の練習不足もあって稽古を重ねるうちに、手足の痛みを感じ一日の練習を終える頃にはヒザがガクガクでしたが、二日目は次第に形も整い、細かい所にも注意し舞える様になり、最終日には、先輩方も加わり一通り舞った後に4人舞の御指導を受けました。



初めはぎこちない舞でしたがスムーズに舞える様になったので、今後もその形を忘れずに練習に励んで下さいとの言葉を頂きました。

これからも、今回の多先生の御指導の成果を生かし御神前で立派な舞を奉納できるように、頑張って練習していきたいと思います。

この三日間、御親切に教えて頂き、本当にありがとうございました。

心から感謝しています。

巫女代表

社務日誌抄

七月一日　月次祭
出光興産㈱福岡支店長山本繁弘氏就任挨拶の為来社
出光石油化学㈱福岡支店長潮田勝義氏参拝
コスモメイト北九州支部十名参拝
福岡県トラック協会東筑分会四十六社参拝
七月五日　広島県福山市福山八幡宮吉川宮司夫人外四名参拝
七月八日　宗像海運㈱代表取締役松田眞市氏参拝
テレビ西日本製作部鵜木健氏「ウイラブ九州」放送打合せの為来社
七月十日　丸万㈱取締役営業部長岩堀和巳氏外一名参拝
宗像護国神社戦没者慰霊祭千灯明打合せ会
七月十一日　宗像大社菊花会運営理事会
七月十三日　秋山幸衛夫妻参拝
七月十四日　出光興産㈱福岡支店総務課長市塚順氏就任並福地千秋氏同総務課長退任挨拶の為来社
神興小学校六年生一五〇名社会科見学の為来社
七月十五日　月次祭・祇園祭
七月十六日　葦津嘉雄氏・赤木国雄氏電算機の件にて来社
七月十八日　テレビ西日本番組取材の為来社
七月十九日　鹿児島川畑敬子氏参拝
香椎税務署々長柳克芳氏・同副署長多々良康浩氏新任挨拶の為来社
七月二十一日　神道政治連盟三役会於勅使館
神道政治連盟会長工藤伊豆氏外八名三役会出席の為来社
出光興産㈱店主室々長稲用和雄氏外一名並慶應義塾大学教授森川英正氏参拝
七月二十二日　出光興産㈱社長出光裕治氏外十一名参拝就任奉告祭斎行
七月二十三日　出光仙台安全協力会十七社参拝
七月二十四日　中津宮七夕揮毫会
七月二十五日　奈良文華アカデミー三十名参拝
七月二十六日　㈶福岡県栽培漁業公社事務局長古田久典氏並韓国人研修生一名、中国人研修生三名来社神宝館拝観
七月二十七日　太宰府天満宮小鳥居権宮司外二名並神務実習生十九名参拝
七月二十八日　香椎税務署三十名管内視察の為来社
西日本新聞宗像支局都留記者転勤挨拶の為来社
七月二十九日　出光興産㈱福岡支店総務課宮口氏外二名献茶祭道具点検の為来社
七月三十一日　大祓式・夏越祭
地元総代並協力会大祓式・夏越祭諸準備奉仕

残暑御見舞申し上げます

美松タクシー有限会社
代表取締役　塩川弘昭
宗像郡津屋崎町大字津屋崎新川端
TEL　〇九四〇－五二－〇〇一五

大和印刷
代表取締役　的場重徳
宗像市大字田熊五二六－二
TEL　〇九四〇－三六－二〇二七

総合建設業
株式会社　弘江組
取締役会長　中野弘愛
代表取締役　花田和彦
福岡県宗像市大字稲元一〇二五
TEL　〇九四〇－三二－二五六七・三二－三九一八

総合結婚式場
のがみ
プレジデントホール宗像
取締役社長　野上幸敏
宗像市大字土穴四六六－一
TEL　〇九四〇－三二－一一－一三五五

宗像グリーン株式会社
代表取締役　瀧口潤一郎
福岡県宗像市大字稲元九〇五
TEL　〇九四〇－三三－一二七一

ハナダ写真館
代表者　山下孝男
福岡県宗像市大字東郷一〇三一
TEL　〇九四〇－三六－一一〇〇九(代)

宗像大社歌会 俳句作品集（三六五）

ひかりヶ丘　南　風生
梅雨じめり古き畳の古き疵

若　松　井手　清隆
不知火の城址の野点緑さす

藤　沢　井上　玄洋
降りしきる雨に煌く濃紫陽花

福　間　森　清
夏めくや山裾の村人も見ず

福岡中央　力丸　玄風
沙羅咲けるここは維新の歌人跡

自由ヶ丘　細川　絹子
愁う身を梅雨にことよせ長電話

田　熊　力丸　一郎
釣怒五十年経し父偲ぶ

日の里　花田いつ枝
追ひ山笠や太鼓の一打雪崩込む

津屋崎　井浦　良介
水満てるプールに溢れる子の歓声

福　間　高橋辰次郎
あけそうであけない梅雨の土用かな

（続）浜の寄物 79

沖ノ島へ

いしいただし

それは次のような呼び掛けであった。

「旧ソ連・ロシアが日本海の水深一〇〇〇～三〇〇〇メートルの海域に核廃棄物・毒ガスを投棄していたことが明らかになっています。わが国への影響も懸念される中、水産庁・海上保安庁は重い腰を上げ、該当水域で、魚や海底の泥の採取・分析をしています。しかし、調査結果がきちんと公開されることはむずかしいようです。

海流を専門とする学者の指摘では、固体廃棄物の容器が壊れるなどして、中身が浮かび上がった場合、海流や季節風に乗って、本州沿岸に漂着することが考えられるそうです。漂着物を収集しておられるみなさんが手にすることは十分にありうるわけです。

そこで、民間の私たちとしても独自に調査することは意味があると思い立ちました。

皆さんのお持ちの旧ソ連・ロシア製品と考えられるものをお調べの上、お持ちの資料内容を私あてにお知らせ頂きたいと思います。

できれば、写真をつけ、大きさ、重さ、発見場所と日時を教えて下されば幸いです。また核廃棄物について情報や噂があれば教えて頂ければと思います。

なおロシアのヤブロコフ大統領顧問が明らかにしたところによると、固体廃棄物は金属製のコンテナに入れられ、中身は作業用の手袋、帽子、服、容器など、いずれも低い放射能を帯びているということです。

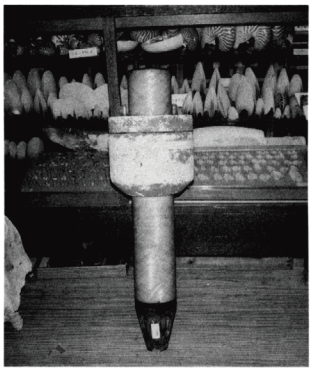
核は我々だけでなく、子孫にも影響を与える問題です。ぜひ積極的な協力をしてくださいますようお願いいたします」。

南は沖縄から、北は北海道まで十数名を選んで発送した。漂着物は、航行する船舶からのものと、現地から直接海流に運ばれるものと、海底に沈んでいるものとに区別することができる。海底の場合は海岸までの距離、深さとの関係があり、全て沈んでいるものが打ち上げられるとはかぎらない。それに一〇〇～三〇〇〇メートルの深さで、しかも金属製コンテナであるため、それが崩壊し、中の物体が浮上したりすることがあれば、問題が起る可能性はあろう。それは今すぐではないにしても将来起こり得ることも考えられる。

能登半島の室矢幹夫氏から旧ソ連・ロシアの漂着物の写真等が届いた。乾電池、缶詰、プラスチック製洗剤容器、白樺の皮を利用した漁業用浮子もあった。そして薬箱（カプセル入りのケース）がある。この薬箱の写真と取扱いを印刷したものをどこかで見たことがあると、スクラップブックを調べてみたら、昭和六十三年（一九八八）六月二十二日付の朝日新聞にあった。タイトルはオホーツク88の(上)活発なソ連軍・漂着物が反映での記事旧ソ連の日本海、北海道周辺での軍事演習、その度に物騒な物が漂着しているのである。「五月二十二日、小樽の西方、余市の海岸に救急箱が打ち上げられた。カプセルが六個入り、ロシア語の説明には「放射能抗剤」などとあった。「原子力ミサイル巡洋艦フルンゼが落としたのだろうか」と海上自衛隊の幹部。」とある。この時の演習に原子力巡洋艦が参加していたのである。

能登・室矢氏がこれと同じ薬箱を能登・安部屋海岸で平成四年一月に漂着しているのを拾っている。「放射能抗剤」というのが不気味だ。旧ソ連からロシアへなって大々的な演習も行われていない。とすれば数年前の漂着物が今頃見つかったのか、それとも現在でも核廃棄物が投棄されているので、それと関連するのであろうか。

もう少し色々な情報を待ちたい。



宗像・白石浜に漂着した信号燈？（旧ソ連製）

玄海に漂着した旧ソ連製品

宗像むかしばなし

幽霊船（後）

奇怪な光芒を投げて、幽霊船は行く。暗黒の潮流を蹴って、宗任の亡霊は呼ぶ。

「津和よ、ひるむな、安住の天地が待つぞ、男の児を産め、猛きもののふを育てよ」

執念の声は鋭く、闇をつん裂いて津和の耳朶を敲く。何か答えようとあせったが、声にならない。我を忘れて宗任の幻影を凝視しつづけた。

「見えたぞ、宰領の迎え船が」と、喜ばしげに叫ぶ若者の声に、ふと我にかえった津和。夢か、うつつか、確かに宗任の乗った船が、わが小舟を導いていた筈だが、東天ほのかに白みかけて、ゆく手に河野党の軍船とおぼしき二隻が待っていた。一同はやっと救われた面持である。右馬太は疲れた津和をはげまして、ゆったりと微笑んだ。

追跡の役人は、小舟を見失っただけでなく、夜が明ける頃、津和瀬の近辺をぐるぐる漕ぎ廻っていたことに気づいて、一同落胆自失。昨夜来の奇怪な謎が、宗任の亡霊の仕業とわかって慄然とした。

おお、幽霊船！その夜、玄海に起った出来事は、波は語らず、御獄の鳥は答えずとも、いつしか村人の噂となって広がり、無実の罪を怒り、敗残の死を憤る宗任の執念を弔うため、一基の碑が祀られ手厚い供養が行われたのである。

今も大島に、この辺りには見かけぬ形の彼の墓石が存する。心ある村人は、彼の菩提を弔い香花を手向けている。津和瀬に寄せる波音は、この英傑の末路を悲しむが如く、美しい侍女津和の貞烈を讃えるが如く、先年の祕琴を奏でている。おお、執念の幽霊船！

宗任は大島に移される前に、一時宗像の土穴に幽閉されたとの説もあり、今日の土穴の地名は、当時の故事による由。伝説は真偽を分明に言い難いところに妙味があると思うので、歴史の真実は永遠の謎と断ずる先哲の意見に従って、ホジクリ学者の真似はすまい。

途中で物語の筋道が、変てこな土穴論にそれたが、津和と、その産んだ宗任の遺児の物語に、話を戻そう。

河野党は宗任の教えた造船技術によって、瀬戸はおろか、玄海、壱岐、対馬にも、覇をとなえる程の秀れた軍船を持つようになった。宗任の請いを容れて、津和を壱岐に逃がし、遺児の成長にも藤の援助を惜しまなかったのも、単に悲劇の勇将への同情だけでなく、水軍発展の指導者だった彼の恩義に報いる武士道からでもあった。

歴史の舞台は転々、鎌倉時代に入って、宗任の遺児の子孫は壱岐から平戸五島方面にも勢を得、世に謂う海賊大名、松浦党となって、その軍船の威力は、四国の河野水軍と竝んで声望四隣を圧した。元寇において、博多湾に河野一族のめざましい、奮戦が伝えられているが、松浦党も、亦壱岐や、肥前の沿岸防衛に大活躍。巨大な元軍の兵力を各地に破摧した功績は、まことに看過できないものがあったと云う。次いで南北朝の争乱、室町時代から戦国の抗争、それぞれ松浦党が大きく動いていたのである。

その松浦党の始祖は、安倍宗任の後裔であると大日本史は明らかに伝えている。むべなるかな、陸奥の勇名を馳せた猛虎の血は、西海の波涛に躍る飛龍となって流れ、その転機にわが筑前大島も一役の祕聞を残した次第。

なお付け加えておくが、宗任の墓は筑前新宮沖の相の島にもある。何かの事情で、ここでも彼の菩提を弔う始末となったのであろう。純朴な島人の愛情によって、両島の墓碑がいつまでも大切に保護され、慰霊の祀りが絶えないよう願ってやまない。

残暑御見舞申し上げます

宗像大社神酒
楢の露
ナラノツユ
合名会社　勝屋酒造
宗像市大字赤間九五七

神酒宗像
宗像大社神酒
神酒宗像
福岡県宗像市大字武丸一〇六〇
合資会社　伊豆本店
伊豆善也

日本紙工株式会社
九州事業部
事業部長　武藤山治
福岡市博多区吉塚三丁目七番十三号
TEL ○九二－六一一－三九三五

SHIROYAMA
暮らしの夢を大きくひらく
城山家具
代表取締役社長　寺田修
宗像市大字三郎丸五一九－一
TEL ○九四○－三三－五五三八

鮮魚仲買　有限会社
卸・小売業　やまえ水産
代表者　安部實
宗像郡玄海町神湊
TEL ○九四○－六二－○○○六

SANCS
株式会社　サンクス
代表取締役　藤井俊孝
宗像市東郷一○九一－一三
TEL ○九四○－三七－二一五○